

2025年度 日本工学院八王子専門学校											
CG映像科											
制作特論 2											
対象	3年次	開講期	後期	区分	必	種別	講義	時間数	60	単位	4
担当教員	栗原、浅沼、榊原			実務 経験	有	職種	画家、予備校講師				
授業概要											
<p>最高学年として、より複雑なモチーフや条件の課題内容を実践します。観察力・表現力を養うために、教室内にセットしたモチーフや配布されたモチーフを主に鉛筆でデッサンします。さまざまな形態や質感を持つ工業製品や自然物、石膏像やモデルや自分自身の体もモチーフになります。1枚の作品に対して長期的に制作することで、作品の計画・表現・検証・仕上げのプロセスを繰り返し体感します。</p>											
到達目標											
<p>この科目では、実際のモチーフを主に鉛筆を使用し、二次元画面に立体的に表現出来るようになることを目標とする。具体的には、さまざまな形態や質感を持つ工業製品や自然物、およびモデルや自分自身などの人体をよく観察して描くことで、解剖学的・構造的に理解し、モデリングやアニメーションをはじめとしたCG制作に役立てることである。また、構図、光、質感表現など作品の絵作り、見せ方の基本も学ぶ。</p>											
授業方法											
<p>実習形式でモチーフやモデルを鉛筆でデッサンすることを中心に行う。制作を通じて描写や観察のトレーニングを繰り返し、形態の客観的な把握（形を合わせる）、透視図法を基にした空間・立体表現、より緻密に観察した質感表現、を体得する。3年次後期は、彩色模写、細密ペン画、有色下地デッサンなどさまざまな描画素材を用いて完成度の高い作品を作る。希望者には粘土を用いた塑像を制作し、立体的な把握を強化する選択課題も用意する。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題50%完成した企画の完成度について評価する。平常点 50%積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。</p>											
履修上の注意											
<p>ここでは、実際に描いて経験しデッサンを自分の感覚の中に取り込むことを重視する。したがって、描き、モチーフと比較検証し、直し、より対象に近づくとこの姿勢が大切であり、制作途中段階での比較検証を怠ったり、完成を焦って直すべき構図や形態をそのままに放置するという態度はとるべきではない。うまく出来ないことを恐れずに積極的に描いてみるのが上達に繋がる。</p>											
教科書教材											
鉛筆デッサンきほんの「き」必要に応じてモチーフや資料を配布する。											
回数	授業計画										
第1回	人物デッサン・クロッキー クロッキーの実践、様々なポーズを通して人体構造を考える										
第2回	人物デッサン・クロッキー 適した構図の検討、モデルの印象を捉える										
第3回	人物デッサン・クロッキー ポーズや人体構造を理解し、正確なプロポーションを測る										

第4回	人物デッサン・クロッキー ディティールを詰め、マスを意識する
第5回	構図講座 構図の視覚効果を理解する
第6回	構成デッサン 意図ある構図を考える
第7回	構成デッサン モチーフを組み合わせ、それぞれの関係と空間を表現する
第8回	構成デッサン 構図の意図を伝えられる描写を考える
第9回	静物デッサン 適した構図の検討、モチーフの印象を捉える
第10回	静物デッサン モチーフの構造を理解し、正確なプロポーションを測る
第11回	静物デッサン ディティールを詰め、遠近感を意識する
第12回	剥製デッサン 生物の特徴を発見する
第13回	鳥のキャラクターデザイン 鳥の剥製デッサンを元に、鳥のキャラクターをデザインする
第14回	鳥のキャラクターデザイン 鳥のキャラクターの三面図を描く
第15回	鳥のキャラクターデザイン キャラクターにポーズをつけ、デッサンとして描く